

## 2021年度事業実績報告

大野城市国際交流協会は“Think globally, Act regionally”（地球規模で考え、地域に根ざした行動）をモットーに、大野城市の国際化および大野城市民の国際感覚の養成に貢献することを目的として活動しています。

2021年度も、引き続き新型コロナウイルスの影響で、昨年度と同様に已む無く中止した事業もありましたが、「やれるだけはやってみよう」と感染防止対策を十分にとり、工夫を凝らした新たな企画で、例年にないような内容の深い楽しい異文化交流事業が展開出来ました。

また、FOSA等への参加呼びかけのなかで、「外に出る機会が出来て良かった」「今年はコロナ禍でないと思ってたので、開催されて嬉しい」など、多くの外国人留学生たちが喜んで参加してくれ、スタッフも「企画して良かった」と例年にない事業達成の感激に触れました。

“国際交流フェスティバル”では、入場人数の制限がある中、主だった参加者は関係者だけで残念な思いでしたが、日本の参加者（ひよっこ踊り）とカンボジアの民族衣装を着た応援の人たちが、お互いにその衣装を見て交流がはじまり、最後には全員でひよっこ踊りの輪ができました。

異文化の紹介で終わるのではなく、それをきっかけに話し、ふれあい、交流が始まれば、とても意義あるものになると思われまます。

コロナ禍で今年も中止になった「US-JAPAN」事業は、「オンラインバーモント」として市長の挨拶もいただき、懐かしいボブさんはじめ、双方のホームステイ者、ホストファミリーなどとのオンラインでの交流を行いました。このオンライン交流事業は、今後の事業の新しい面を示唆するものと思います。

なお、これを実施するに当たり、心のふるさと館、ふるさとにぎわい課の職員の方等から大きな協力を頂きました。

コロナ禍で従来の事業は十分に実施できませんでしたが、色々な企画が出され、予想外の成果や今後の展望が見えてきたようにも思います。

ピンチはチャンスという言葉がありますが、2022年度は今年の活動の中から出てきたものを生かし、会員の皆さんと、より良い協会を目指して次年度事業に取り組みたいと思います。

皆さん方のますますのご協力、ご支援を宜しくお願い致します。